

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
橋本 勉			
月3、4			
添付ファイル			

科目の概要	保健・医療・福祉・介護システムの概要を紹介します。医療とは何かを中心に、医療に携わる人々、日本の医療制度、医療の歴史とこれからの課題、チーム医療の基礎にある患者中心の医療とはどのようなものか、について学び、医療スタッフの一員である管理栄養士の役割を幅広い視野から学修します。
授業の内容	<p>第1～4回 第1章 医療は誰のものか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療の基本「人道主義・人権」について考える 2 患者の権利を尊重する 3 医療現場の倫理 4 2つのケースから学ぶ臨床倫理 5 「人の気持ちを慮ること」の大切さ 6 情報共有とチーム医療 7 カウンセリングによる自己決定支援 8 医療職のプロフェッショナルリズム <p>第5～7回 第2章 健康とは何だろうか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 多様な健康観と医療観 2 健康の決定要因とヘルスプロモーション 3 Well-being (幸福・健康) のとらえ方と支援 ——国際生活機能分類 (ICF) とリハビリテーション 4 こころの病いとwell-being 5 Well-being (幸福・健康) を高める支援 6 保健医療が追求する価値と医療職の役割 <p>第8～11回 第3章 医療がたどってきた道と未来への展望</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 近代医学の誕生と感染症対策 2 非感染性疾患の増加——生活習慣病の予防に求められる姿勢 3 ゲノム医学の登場からゲノム編集へ 4 医療・情報テクノロジーの活用に伴う課題 5 健康影響をもたらす環境問題と医療職のあり方 6 薬害にみる利害関係の医療への影響と医療の質 7 補完代替療法と全人的統合医療 8 臓器移植から再生医療へ 9 健康を次世代へつなぐこと——本当に守らねばならないものは何か? 10 科学的根拠とこれからの医療 <p>第12～15回 第4章 医療システムを理解しよう</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事例をもとに考えてみよう 2 医療の機能分化と地域医療連携 3 地域包括ケアシステムと多職種連携 4 医療保険制度と介護保険制度 5 医療経済と資源の適正な配分 6 防災・減災・地域の力と災害医療 7 健康課題の国際化と持続可能な開発目標 (SDGs) 8 医療安全と医療職に求められる態度
学習到達目標	医療に携わるさまざまな職種の役割を理解する。 日本の医療制度の概略を理解し、医療・介護・保健・福祉について理解する。 チーム医療について学び、他職種との連携・協働について理解する。 管理栄養士の果たすべき役割について理解する。
授業の方法	教科書に沿って、プロジェクターを使用し、講義形式で授業を進めます。 毎回小テストを行い、理解度を確認します。
成績評価の方法	定期試験 (80%)、小テスト・授業態度 (10%)、課題 (10%) により総合的に評価します。
教科書・テキスト	「学生のための医療概論 (第4版)」、小橋、近藤、黒田、千代編、医学書院、2020 適宜、参考資料を印刷して配布します。
参考書	「楽しくわかる栄養学」、中村丁次著、羊土社、2020 「栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編 改訂第2版」、本田、土江、曾根編、羊土社、2016 「系統看護学講座 別巻 医学概論」、日野原重明著、医学書院、2003
授業時間外の学修について (事前・事後学習について)	1 単位の取得には45時間の学修を必要とし、授業 (30時間に相当) に出席する以外に60時間 (実時間で180分×15回) の学修が義務付けられています。 使用する教科書の該当する範囲を予習し、重要と思われる項目を整理してから授業に臨み、授業後は、配布された資料等を含め授業内容をよく復習してください。
履修上の留意事項	医療について興味と関心を持つことで、日常生活を通して知識を増やし理解を深めてください。
オフィスアワー	金曜日の昼休みは、原則、研究室 (4号館 4-408号室) に待機しています。 他の時間帯の訪問は、なるべく事前連絡をお願いします。
実務経験	放射線診断医として診療に従事 (昭和54年～平成25年)

その他	授業中、積極的に発言・質問してほしい。私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。
-----	--